

二〇二二年度

適性検査Ⅰ

注意

- 1 問題は **1** のみで、**3** ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は**四十五分**間です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけ**を提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受験番号・氏名**を問題用紙と解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

聖徳学園中学校

受験番号				

氏名

1 次の「文章」と「詩」を読み、あとの問題に答えなさい。

(※の付いている言葉には本文のあとに「注」があります)

「文章」

大阪で小学校に通う娘は、2年生の新クラスで1か月たっても「顔をすぐ思い出せない子がいる」と言う。昨年の入学以来、学校でマスクを外すのは「黙食」ルールの給食と一部の体育の時間ぐらい。先月からの緊急事態宣言で在宅のオンライン授業が始まり、パソコンの画面が顔を見せ合う場となったのにも驚く。新生活で出会った顔の記憶がぼやけがちなのは、大人も同じだろう。本紙の世論調査によると、実践するコロナ対策に外出時のマスクを挙げた人は実に98%。大前提の対策である以上、一時の辛抱と考えるしかないが、ずっとこの状態が続いたら…と思うと少し怖い。

もともとマスク (mask) (仮面) で顔を隠す文化は古くから存在する。

仮面を使う儀式や芸能は世界各地に伝わっており、室町時代に世阿弥が確立した能楽はその一例だ。演者は能面を使い分けて死者の霊や精霊、女性などになり、喜怒哀楽の表情や言葉を持つ。仮面は異界と人間をつなぐ装置ともいわれる。

感染予防のマスクも、とらえ方次第では安心感と勇気をくれる装置に違いない。他人の視線という緊張から解放され、少し違う自分になれるのだ。コロナ後は顔を隠すのが目的の「だてマス

ク」が広がるのではないか、との指摘もある。

1億総マスク社会は、同じく顔の見えないインターネットの世界にどこか似ている。SNS上の中傷や偽情報の氾濫といった課題も指摘される匿名社会のリアル版リとは言えないか。

東京大名誉教授で日本顔学会元会長の原島博さん(75)は、匿名ならぬ「匿名」という造語で新たなマスク時代を読み解く。

使い始めたのは顔学会が発足した「インターネット元年」の1995年。匿名化が進む情報社会を象徴するキーワードだったが、今は言葉通り、顔を隠すことで希薄化しかねない人間関係にもあてはまる。

考えるヒントは、人間の顔の成り立ちにあるという。ヒトの集団生活が始まり、他者に感情を伝えるコミュニケーションで大きな役割を担ったのが、動かしやすくなった口元だった。対する目元は個人を特定するための識別情報に近い。

マスクをしても、目元さえ見えれば社会生活上の不便はない。だが裸の部分さらして他者と信頼関係を築く、顔本来の役割がおろそかになるというのだ。

原島さんは「うまく使えば便利なネットとは違う。マスクで相手の気持ちを理解しない、共感のない社会にならないか。今後の検討課題は多い」と語る。

そんな中でも「匿名」社会への対応は進む。企業や団体のビジネスマナー講習などで、日本現代作法会(大阪市)会長の寒川由美子さん(56)が最近指導するのは、目元の笑顔やクリアな声、

身ぶり手ぶりの大切さだ。マナーの本質である「思いやり」を伝えるのに「言葉が一段と重要になった」と強調する。

表情の代わりに自らの意思やメッセージを伝える「メディア」、個性を表現する「ファッション」としてのマスクも登場。テニスの大坂なおみ選手が、マスクに人種差別への抗議を込めていたのを思い出す。

我々は新しい秩序^{※ちつじよ}を生み出せるのか。それとも、暴走の危険性をはらむ無機質な社会へ突^つき進^{すす}むのか。考え出すとキリがないが、結局はコロナ終息が解決策。今はマスクを闘^{たたか}いの「ユニホーム」に見立て、着用を徹底^{てつてい}するしかなさそうだ。

人の心は面^{おもて}の如し、という。いつか我が子が振り返^{かえ}った時、思い出の顔がのっぺらぼうばかりでは寂^{さび}しかろう。悲しいかな、目だけで口ほどに物は言えないのである。

(読売新2021・5・9刊による)

※ 世阿弥 — 室町時代の能を大成したひと

※ 秩序 — ものごとを行ううえでの正しい順序

※ 無機質 — 乾^{かわ}いて冷たい感覚のこと

「詩」

存在 川崎 洋

「魚」と言うな

シビレエイと言えブリと言え

「樹木」と言うな

檜※かしの木と言え 椴※くぬぎの木と言え

「鳥」と言うな

百舌鳥※もずと言え 頬白※ほおしろと言え

「花」と言うな

すずらんと言え鬼ゆりと言え

※
さらでだに

「二人死亡」と言うな

太郎と花子が死んだ と言え

(川崎洋 詩集『ほほえみにはほほえみ』童話屋刊 による)

※ 檜・椴 ————— ともに樹木の名称

※ 百舌鳥・頬白 ————— ともに野鳥の名称

※ さらにだに ————— 「ただでさえ」の古い言い方

「問題 1」

文章と詩において「匿名・匿名」ということについてどう考えているか、それぞれ分かりやすく、三〇字以上四〇字以内で説明しなさい。

「問題 2」

「問題 1」でとらえた二つの考え方のどちらかに必ず触れて、「じぶんの経験したこと」をまじえてマスク社会・匿名社会ということについて三二五字以上三五〇字以内で説明しなさい。

〈きまり〉

- 題名は書きません
- 最初の行から書き始めます
- 段落だんらくを設けず、一まずめから書きなさい。
- 、や。や」などもそれぞれ一字として数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます。
- 。と」が続く場合には、同じますめに書きます。この場合、。で一字と数えます。

